

**第23回全国障害者スポーツ大会
障害者スポーツ普及基本計画
Ver. 2.0**



佐賀県競技力向上推進本部

(平成29年3月策定)

(令和3年3月改訂)

《 目 次 》

はじめに ～ 基本計画の策定の趣旨 ～	P1
第1章 基本的な考え方	P3
1 基本計画の位置付け	
2 基本計画の対象となる期間と目標	
3 基本計画の見直し	
第2章 佐賀県の障害者スポーツの現状	P5
1 佐賀県の現状	P6
(1) 全国障害者スポーツ大会の概要と成績	
(2) 国際大会の成績	
2 佐賀県の障害者スポーツを取り巻く環境	P9
(1) 本県の障害者スポーツ人口	
(2) 県内の主な障害者スポーツ大会の状況	
(3) 特別支援学校、作業所等でのスポーツの活動状況	
(4) 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導員資格の 取得状況	
第3章 障害者スポーツ普及に向けた具体的な取組	P17
1 取り組むべき4つの柱	P18
2 具体的な対策	P18
(1) 組織体制の整備・充実	
(2) 大会競技の普及及び選手の発掘・育成・強化	
(3) 指導体制の確立	
(4) 障害者スポーツ普及のための環境整備	
3 障害者スポーツ普及のための主なスケジュール	P24
第4章 障害者スポーツ普及基本計画の推進体制	P25
1 推進体制の組織図	P26
2 推進体制の充実・拡充	P26
(1) 基本計画に基づく障害者スポーツ普及対策事業の展開	
(2) 新たな障害者スポーツ普及対策の立案と組織の充実	
参考	P27
全国障害者スポーツ大会の概要	

はじめに ～ 基本計画の策定の趣旨 ～

佐賀県では、平成35年に開催する予定の第78回国民体育大会・第23回全国障害者スポーツ大会に向けた競技力の向上及び障害者スポーツの普及を図るとともに、大会終了後も更なる本県のスポーツの推進に寄与することを目的として、「平成35年国民体育大会・全国障害者スポーツ大会佐賀県競技力向上対策本部（以下「対策本部」という。）」を設立した。（平成28年2月）

今後は、選手の発掘・育成や障害の特性を理解した指導者の養成、選手を支えるサポーターの育成等、障害者スポーツの普及に資する具体的な施策を提唱し、第23回全国障害者スポーツ大会において、対策本部が掲げる目的を達成するため、ここに『第23回全国障害者スポーツ大会障害者スポーツ普及基本計画』を策定する。

- 「国民体育大会・全国障害者スポーツ大会佐賀県競技力向上推進本部」に名称変更（平成30年3月）
- 「国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会佐賀県競技力向上推進本部」に名称変更（平成30年7月）
- 「佐賀県競技力向上推進本部（以下「推進本部」という。）」に名称変更（令和2年3月）
- 第23回全国障害者スポーツ大会佐賀大会開催が令和6年に延期（令和2年10月）

第 1 章

基本的な考え方

第1章 基本的な考え方

1 基本計画の位置付け

この基本計画は、第23回全国障害者スポーツ大会（以下「全障スポ佐賀大会」という。）に向けて、障害者が広くスポーツを楽しむ機会や“きっかけ”を増やし、日常的にスポーツを楽しむ環境づくりを進め、全障スポ佐賀大会において、佐賀らしい戦い方で開催県としてふさわしい成績を収めるとともに、大会終了後も新たにスポーツを始める障害者が継続して増えていくなど、スポーツに親しめる社会を目指して、選手の発掘・育成や指導者の養成等に関する具体的な障害者スポーツ普及対策を示すものである。

2 基本計画の対象となる期間と目標

基本計画では、全障スポ佐賀大会の開催前後を次に掲げる4つの期間に区分し、大会競技や障害者スポーツの普及を図りながら、全障スポ佐賀大会では、①団体競技全競技種目出場、②個人競技のメダル多数獲得を目標とする。

区 分	期 間	目 標	
		九州ブロック予選会等に出場できる団体競技種目数	個人競技メダル数
発掘・育成期	H28年度～H30年度	3種目/12種目	
充実期	H31年度～R3年度	6種目/12種目	
完成期	R4年度	11種目/12種目	
	R5年度	12種目/12種目	
	R6年度	12種目/12種目	140
定着期	R7年度以降	12種目/12種目	

※ 目標設定についての考え方

- ・ 九州ブロック予選会等に出場できる団体競技種目数

団体競技における全国障害者スポーツ大会への参加資格は、九州ブロック予選会の優勝チームに与えられるが、開催県は、予選会なしで参加資格が与えられる。

平成28年度時点で、九州ブロック予選会に出場している競技種目は2種目であるが、全障スポ佐賀大会には全競技種目に出場し、開催県としてふさわしい成績を収めるため、九州ブロック予選会等に出場できる競技種目数を順次増やすことを目標としている。

- ・ 個人競技メダル数

個人競技は、出場者数を障害者手帳所持者数により決められており、例年であれば23人前後の出場者数であるが、開催県は、140人前後の出場者が割り当てられ、メダル獲得数も他県開催時よりも多くなる見込みである。

なお、目標とするメダル数は、直近3大会の開催県のメダル数を参考としている。

3 基本計画の見直し

基本計画は、障害者スポーツの普及の進捗状況や全国障害者スポーツ大会の正式競技の変更等の外部環境の変化を踏まえ、適宜見直しを行う。

第2章

佐賀県の障害者スポーツの現状

第2章 佐賀県の障害者スポーツの現状

1 佐賀県の現状

(1) 全国障害者スポーツ大会の概要と成績

① 大会の概要

障害のある選手が、障害者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進に寄与することを目的とし、以下の競技が行われている。

ア 正式競技と参加者数（令和3年三重大会実施予定競技）

	実施競技・参加区分		参加選手数（人）
個人 (7競技)	陸上競技	身体・知的	960
	水泳	身体・知的	308
	アーチェリー	身体	75
	卓球 ※ワイドテーブルテニス（身体）含む	身体・知的	460
	フライングディスク	身体・知的	397
	ボウリング	知的	200
	ボッチャ	身体	140
	個人競技計		2,540
団体 (7競技)	バスケットボール	知的（男女別）	168
	車いすバスケットボール	身体	84
	ソフトボール	知的	105
	グラウンドソフトボール	身体	105
	バレーボール	身体（男女別）	168
	バレーボール	知的（男女別）	168
	バレーボール	精神	84
	サッカー	知的	112
	フットベースボール	知的	105
	団体競技計		1,099
総参加選手数※			3,639

※総参加選手数は、参加者の上限数である。

※三重大会から、ボッチャが正式種目として追加される。

イ オープン競技

障害者スポーツの普及・振興並びに障害に対する理解を深めるため、正式競技以外の競技の実施について、関係団体などと協議し、競技を決定し、大会期間中に実施する。

（三重大会実施予定競技）スポーツウェルネス吹矢、ハンザクラスセーリング

② 本県の大会参加状況及び成績（平成23年～令和2年）

競技名	第11回山口大会 (平成23年)					第12回岐阜大会 (平成24年)					第13回東京大会 (平成25年)					第14回長崎大会 (平成26年)					第15回和歌山大会 (平成27年)					
	選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				
		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計	
個人	陸上競技	9	3	1	1	5	10	4	3	1	8	10	1	3	1	5	13	4	4	5	13	10	2	2	7	11
	水泳	3	1	1	1	3	3	0	2	0	2	3	1	1	0	2	4	4	0	0	4	3	2	0	0	2
	アーチェリー	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1
	卓球	3	0	0	3	3	4	0	3	1	4	4	0	1	2	3	4	3	1	0	4	3	0	3	0	3
	フライングディスク	4	1	0	1	2	4	0	1	2	3	4	0	2	0	2	6	2	1	1	4	3	2	0	3	5
	ボウリング	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	1	2	3	3	0	0	0	0	2	0	1	0	1
	個人競技計	21	5	2	6	13	22	4	9	4	17	23	2	8	4	14	31	14	6	6	26	22	7	6	10	23
団体	バレーボール(精神)	10	0(7位)				0	12	0(4位)				0	ブロック予選敗退				ブロック予選敗退				ブロック予選敗退				
	団体競技計	10	0	0	0	0	12	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計		31	5	2	6	13	34	4	9	4	17	23	2	8	4	14	31	14	6	6	26	22	7	6	10	23
競技名	第16回岩手大会 (平成28年)					第17回愛媛大会 (平成29年)					第18回福井大会 (平成30年)					第19回茨城大会 (平成31年/令和元年)					第20回鹿児島大会 (令和2年)					
	選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				
		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計	
個人	陸上競技	10	4	5	4	13	10	2	3	4	9	10	5	9	3	17	10	-				14	-			
	水泳	3	4	0	0	4	3	3	2	1	6	3	2	0	1	3	3	-				4	-			
	アーチェリー	1	0	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	1	1	-				1	-			
	卓球	3	1	0	2	3	3	2	1	0	3	3	1	1	1	3	4	-				6	-			
	フライングディスク	4	2	0	1	3	3	1	2	1	4	3	0	2	4	6	3	-				5	-			
	ボウリング	2	0	1	0	1	2	0	1	0	1	2	0	1	0	1	2	-				2	-			
	個人競技計	23	11	7	7	25	22	9	9	6	24	22	8	13	9	30	23	-				32	-			
団体	バレーボール(精神)	ブロック予選敗退					ブロック予選敗退					ブロック予選敗退					ブロック予選敗退					-				
	団体競技計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
計		23	11	7	7	25	22	9	9	6	24	22	8	13	9	30	23	-	-	-	-	32	-	-	-	-

※ 個人競技種目

出場者数は、障害者手帳所持者数により決められており、例年23人前後の出場者数である。九州内で開催される場合は、近県の特別参加枠として、出場者が上乘せされる。(令和2年鹿児島大会調査では32人の割当)

※ 団体競技種目

団体競技の出場チームは、他県開催時は九州ブロック予選会で優勝したチーム。平成28年度時点において、バレーボール(精神)、車いすバスケットボールのチームが九州ブロック予選会に出場していたが、令和元年度の九州ブロック予選会には、これまでの2種目に加え、バレーボール(知的男子)、グランドソフトボール、サッカー、ソフトボールの6チームが出場した(いずれも予選敗退)。団体競技で全国大会に出場したのは、バレーボール(精神)チームの第8回大会(平成20年)、第9回大会(平成21年)、第11回大会(平成23年)、第12回大会(平成24年)の4大会のみである。

その他、バスケットボール(男子)、バレーボール(知的女子)については、令和2年度にはチームが結成できており、九州ブロック予選会に出場予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により予選会が中止となったため、まだ、大会出場実績がない。

バスケットボール(女子)、バレーボール(身体男女)、フットベースボールについては、県内にチームがないため、九州ブロック予選会に出場できない状況である。

(2) 国際大会の成績

【パラリンピック佐賀県選手】

開催年	開催地	日本選手数	選手名	競技	年齢	性別	成績
2016	リオデジャネイロ	132	出場選手なし				
2012	ロンドン	135	出場選手なし				
2008	北京	162	出場選手なし				
2004	アテネ	163	出場選手なし				
2000	シドニー	151	柳川 春己	陸上競技 (マラソン)	44	男	6位 (2時間54分08秒)
			八島 京子	車椅子バスケットボール (女子)	33	女	銅メダル
1996	アトランタ	81	久保田康磨	アーチェリー	43	男	15位
			柳川 春己	陸上競技 (マラソン, 5000m)	40	男	金メダル (マラソン: 2時間50分56秒)、7位 (5000m)
1992	バルセロナ	75	吉田 重利	アーチェリー	39	男	個人9位、団体4位
			柳川 春己	陸上競技 (マラソン, 5000m)	36	男	6位 (マラソン: 3時間09分29秒)、11位 (5000m)
1988	ソウル	141	久保 和代	アーチェリー	37	女	個人15位、団体4位
			吉田 重利	アーチェリー	35	男	個人9位、団体3位
			吉ヶ江 隆	陸上競技	17	男	7位 (1500m)、準決勝敗退 (200m)、予選敗退 (800m)、7位 (クロスカントリー5000m)
			伊藤 平太	車椅子バスケットボール (男子)	33	男	7位

【デフリンピック佐賀県選手】

開催年	開催地	日本選手数	選手名	競技	年齢	性別	成績
2017	サムスン	108	吉田 翔	バレーボール	32	男	7位入賞
			金持 義和	水泳	23	男	銀メダル4個 (背泳ぎ 200m、100m、 4×200m 自由形リレー、 4×100m メドレー) 銅メダル2個 (200m 個人メドレー、 4×100m 自由形リレー)
			江島 由高	サッカー	31	男	予選敗退
			蓑原由加利	自転車競技 (1000m スプリント、 個人タイムトライアル、 個人ロードレース、 40km ホイントレース)	34	女	8位 (1000m スプリント) 銅メダル (35km 個人タイムトライアル) 7位 (70km 個人ロードレース) 7位 (40km ホイントレース)
2013	ソフィア	147	金持 義和	水泳競技 (背泳ぎ 50m、背泳ぎ 100m、背泳ぎ	19	男	金メダル (背泳ぎ 50m) 銀メダル 2 個 (背泳ぎ 100m、200m)

				200m)			
			江島 由高	サッカー	27	男	予選敗退
			菱原由加利	自転車競技 (1000m スプリント、 個人タイムトライアル 30km、個人ロードレ ース 50km)	30	女	棄権 (1000m スプリント)、7 位 (個人タイムトライアル 30km)、 9 位 (個人ロードレース 50km)
2009	台北	154	勝田 健	バドミントン	20	男	5 位 (チーム戦・男女混 合)
			桶口 智弘	サッカー	31	男	予選敗退
2005	メルボルン	102	出場選手なし				

2 佐賀県の障害者スポーツを取り巻く環境

(1) 本県の障害者スポーツ人口

① 佐賀県人口と障害者手帳所持者数

県内の令和2年3月1日現在の推計人口は、対平成23年比では、95.7%と減少しているが、障害者手帳所持者数は、身体では対平成23年比98.6%と近年減少が見られるものの、知的では119.5%、精神では197.2%、全体では107.9%と増加しているため、県民の障害者手帳所持者の割合は増加している。

また、65歳以上（精神は60歳以上）の割合が全体で、59.8%と高い状況である。

佐賀県人口の推移（毎年3月1日現在）

単位：人

種別	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
佐賀県人口	848,600	845,944	842,269	838,198	833,131	831,665	826,865	821,879	817,739	812,457

出典：佐賀県推計人口（統計分析課調）

障害者手帳所持者数（毎年3月末現在）

単位：人

種別	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31/R1	R2
身体障害者手帳	41,919	42,244	42,392	43,163	43,023	42,993	43,082	42,601	42,358	41,343
療育手帳	7,889	8,070	8,152	8,344	8,522	8,715	8,855	9,070	9,257	9,427
精神障害者保健福祉手帳	3,299	3,620	3,932	4,133	4,441	4,710	5,132	5,528	5,963	6,506
合計	53,107	53,934	54,476	55,640	55,986	56,418	57,069	57,199	57,578	57,276

出典：県内の障害者の現状（障害福祉課調）

障害者年齢別内訳(令和2年3月末現在)

単位:人,%

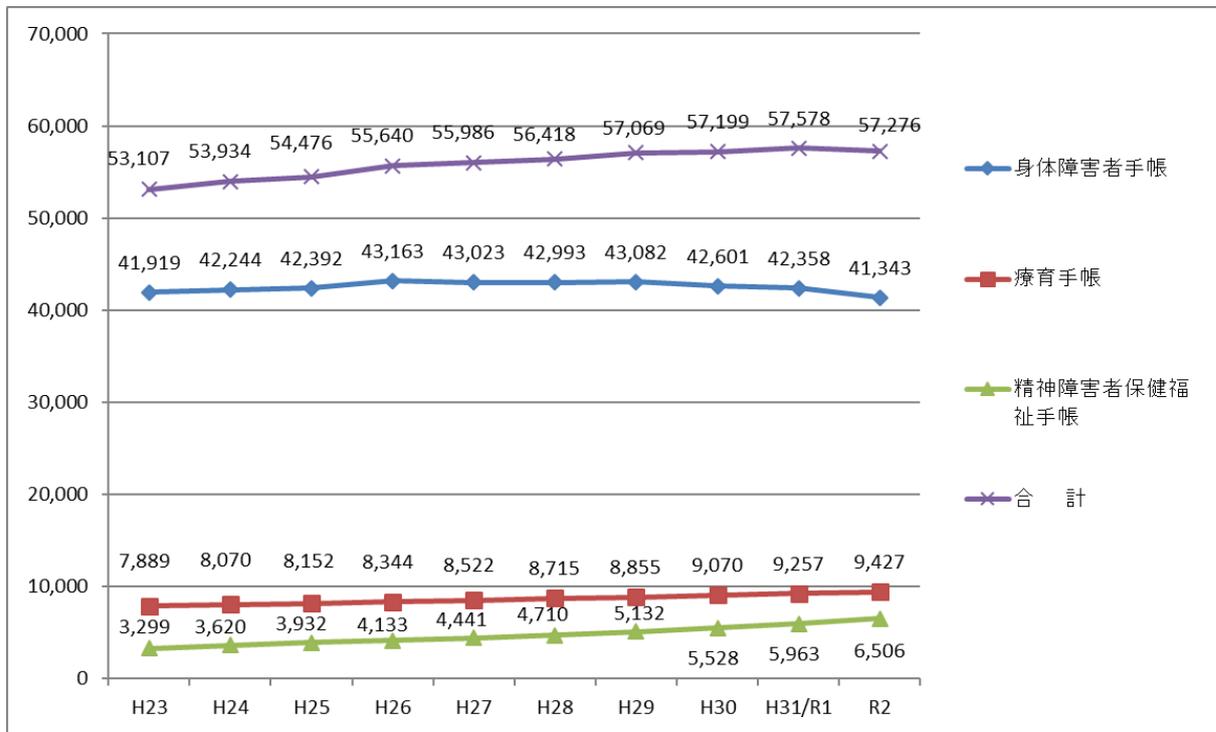
種 別	18歳未満	18～65歳	65歳以上	合計
身体障害者手帳所持者数	589	9,621	31,133	41,343
全体に占める比率	1.4	23.3	75.3	100
療育手帳所持者数	1,763	6,185	1,479	9,427
全体に占める比率	18.7	65.6	15.7	100
身体手帳・療育手帳所持者数計	2,352	15,806	32,612	50,770
全体に占める比率	4.6	31.1	64.2	100

種 別	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
精神障害者保健福祉手帳所持者数	157	462	677	977	1,309	1,294	1,630	6,506
全体に占める比率	2.4	7.1	10.4	15.0	20.1	19.9	25.1	100

障害福祉課調

障害者手帳所持者数の推移(平成23年～令和2年)

単位:人



② 障害者スポーツ人口

平成27年度の佐賀県障害者スポーツ大会に参加した特別支援学校や作業所等33団体に対し、スポーツに関するアンケート調査を行ったところ、「日頃からスポーツを行っている人（週1回以上）」の割合は、22.4%（3,124人中701人）だった。

（障害者については、障害の程度や交通手段の確保など、様々な状況があるため、この割合の多寡についての評価は難しいところである。）

さらに、令和元年度に特別支援学校や作業所等に対し実施した障害者スポーツに関するアンケート調査によると、「日頃からスポーツを行っている人（週1回以上）」の割合は、47.7%（2,914人中1,391人）だった。

この結果は、一見高い数値のように思えるが、特別支援学校に通う学生を除いた、「日頃からスポーツを行っている人（週1回以上）」の割合は、28.6%（1,911人中547人）であり、特別支援学校を卒業した後の環境づくりが重要であると言える。

環境づくりの取組の一つとして、佐賀県障がい者スポーツ協会と協力し、様々な種目を気軽に体験できる障害者スポーツ教室を開催しているが、継続的に開催してきた結果、1教室当たりの参加者数平均は、平成26年度の8.57人に比べて、令和元年度は14.42人と約1.68倍の増となっている。

障害者スポーツ教室の実施状況(平成26年度から令和元年度)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31/ 令和元年度
種目数	8種目	11種目	13種目	15種目	14種目	14種目
回数	42回	88回	125回	144回	133回	123回
参加延人数	360人	926人	2,227人	2,274人	1,968人	1,774人

(2) 県内の主な障害者スポーツ大会の状況

① 主なスポーツ大会の状況

県内の主な障害者スポーツ大会は、下表のとおり行われており、うち県主催大会は、全国障害者スポーツ大会佐賀県選手選考会、佐賀県さわやかスポーツ・レクリエーション祭、佐賀県障害者スポーツ大会の3大会である。

県内の主なスポーツ大会一覧

大会名	時期	主催者	概要
全国障害者スポーツ大会佐賀県代表選手選考会	5月	佐賀県	全国大会に出場する個人競技の選手を選考する大会 競技種目：陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、ボウリング、フライングディスク、ポッチャ
佐賀県さわやかスポーツ・レクリエーション祭	5月下旬	佐賀県	スポーツを始めてみたい方など、誰でも参加できるスポーツイベント 競技種目：卓球バレー、スポーツウエルネス吹矢 他
ムツゴロウ杯卓球バレー交流大会	9月末	佐賀県卓球バレー協会	県外からの参加もある卓球バレーの大会
佐賀県障害者スポーツ大会	10月	佐賀県	スポーツの楽しさを体験しながら、競技力の向上を図る大会 競技種目：陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、ボウリング、フライングディスク、ポッチャ、スポーツウエルネス吹矢、卓球バレー
むつごろう CUP 車いすバスケットボール大会	10月下旬	むつごろう CUP大会実行委員会	九州各県のチームが参加する車いすバスケットボールの大会
肥前地区障害者卓球大会	3月	佐賀県障がい者卓球協会	福岡県・佐賀県・長崎県・大分県の障害者、近隣の中学校卓球部の生徒が参加する障害者卓球大会
佐賀県卓球バレー交流（クスノキ杯）大会	3月末	佐賀県卓球バレー協会	指導者養成講習会も一緒に行われる卓球バレーの大会

② 佐賀県障害者スポーツ大会の状況

ア 大会の沿革

平成13年度までは、身体障害者のみを対象とした大会だったが、平成14年度からは障害種別にとらわれない障害者全体のスポーツとして振興を図る観点から、対象を身体及び知的障害者に拡大し、第1回大会として開催した。さらに、平成19年度からは精神障害者を参加対象に加え、3障害合同のスポーツ大会として開催した。

平成20年度からは、当大会が10月開催の全国障害者スポーツ大会の選考も兼ねていることから、開催時期を10月から5月に変更した。

また、平成25年度からは、障害のある人もない人もスポーツを楽しめる社会を実現するためのきっかけとして、障害者スポーツ大会を県民体育大会、さがねりんピックと同時期の10月に開催することとなり、全国障害者スポーツ大会選考会は、5月に開催することとなり、現在に至る。

イ 実施競技（9競技）

陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、ボウリング、フライングディスク、ボッチャ、卓球バレー、スポーツウエルネス吹矢

ウ 参加者数の推移

佐賀県障害者スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会佐賀県代表選手選考会の参加者の推移
（平成25年度～令和2年度）

（単位：人）

年 度	H25		H26		H27		H28		H29		H30		H31/R1		R2	
	選考会	第12回	選考会	第13回	選考会	第14回	選考会	第15回	選考会	第16回	選考会	第17回	選考会	第18回	選考会	第19回
身体障害者	120	213	99	172	113	222	115	171	110	115	105	138	94	177	122	122
知的障害者	212	328	211	333	216	276	260	395	265	305	257	300	235	306	211	211
精神障害者	-	62	-	44	4	36	12	44	20	29	17	27	22	43	25	25
合 計	332	603	310	549	333	534	387	610	395	449	379	465	351	526	358	358

※第12回大会（H25）からスポーツ吹矢、卓球バレーを競技として新たに取り入れた。

※第15回大会（H28）の陸上競技は、悪天候により中止となった。

※第18回大会（R1）からボッチャを競技として新たに取り入れた。

※第18回大会（R1）の水泳競技は、会場の工事の関係上、中止となった。

※第19回大会（R2）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者数が少なかった。

エ 令和2年度佐賀県障害者スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会佐賀県代表選手選考会大会への参加申込状況（競技別、障害別）

令和2年度佐賀県障害者スポーツ大会 競技種目別・障害別エントリー数

(単位:人)

競技名	肢体	視覚	聴覚	知的	内部	精神	合計
陸上競技	37	15	7	113	0	1	173
水泳	8	3	0	39		0	50
アーチェリー	2		0		0		2
卓球	5	8	1	20		6	40
ボウリング				41		7	48
フライングディスク	14			92	2	2	110
ポッチャ	12						12
スポーツウエルネス吹矢	2	0	0	0	0	1	3
卓球バレー	35	1	6	11	7	9	69
合計	156			316	9	26	507

令和2年度全国障害者スポーツ大会佐賀県代表選手選考会 競技種目別・障害別エントリー数

(単位:人)

競技名	肢体	視覚	聴覚	知的	内部	精神	合計
陸上競技	48	18	13	112	0	6	197
水泳	5	5	0	40		2	52
アーチェリー	2		0		0		2
卓球	4	8	2	22		9	45
ボウリング				51		7	58
フライングディスク	20			51	6	0	77
ポッチャ	16						16
合計	141			276	6	24	447

※2大会ともに陸上競技、水泳、フライングディスクは、1人2種目に出場することができるため、ウの参加者数とは一致しない。

※令和2年度全国障害者スポーツ大会佐賀県代表選手選考会については、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

(3) 特別支援学校、作業所等でのスポーツの活動状況

平成27年度佐賀県障害者スポーツ大会に参加した特別支援学校や作業所等33団体に対し、スポーツに関するアンケート調査を行ったところ、各団体でのスポーツの活動状況は、次のとおりであった。

① 特別支援学校

特別支援学校では、校内の運動場や体育館などの施設を利用し、ランニングや水泳、卓球、フロアバレーなどに取り組んでいる。取組の頻度としては、「ほぼ毎日」から「年に数回程度」、スポーツ時間は、「15分未満」から「1時間から2時間」とまちまちである。

② 作業所、施設等

作業所、施設等では、施設内のグラウンドや民間の施設を利用し、サッカーやフライングディスク、卓球、水泳、風船バレーなどに取り組んでいる。取組の頻度としては、「月に数回」や「年に数回」、スポーツ時間は、「30分から1時間」、「1時間から2時間」が多い。取組頻度が低いためか、スポーツ時間が特別支援学校に比べると長い傾向にある。

③ 障害者団体、障害者スポーツ団体

障害者団体、障害者スポーツ団体では、公営の施設などを利用し、卓球、水泳、ゲートボール、グラウンドゴルフなどに取り組んでいる。取組の頻度としては、障害者団体は、「年に数回」が多く、スポーツ時間も「2時間以上」が多いが、障害者スポーツ団体は、「月に数回」、「週に数回」、スポーツ時間も「2時間以上」が多く、他に比べて、レクリエーションやリハビリ的目的というよりも競技力向上を目指して取り組んでいる傾向にある。

さらに、令和元年度に実施したスポーツに関するアンケート調査において、回答のあった特別支援学校や作業所等69団体のスポーツ活動状況は、次のとおりであった。

① 特別支援学校

特別支援学校では、体育の授業を中心として、ランニングや体づくり運動から水泳や各種球技等、学校ごとの障害特性に応じた幅広いスポーツに取り組んでいる。週1日以上の実施率は、94.3%と非常に高い水準である。

② 作業所、施設等

作業所、施設等では、ウォーキングやキャッチボールなど少人数でできるスポーツからバドミントン、ドッジボール、卓球バレーなどルールが明確なスポーツに取り組んでいる傾向にある。

その反面、回答のあった作業所等の約2割の団体は、スポーツを行っていないという状況でもあった。

(4) 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導員資格の取得状況

県内の障がい者スポーツ指導員登録者数（令和2年3月末現在）

種別	資格概要	受講資格	県内の登録者数
初級	障がい者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援する指導員。健康や安全管理に配慮した指導を行い、スポーツの喜びや楽しさを伝える役割を担う。	満18歳以上の者。	182人
中級	地域の障がい者スポーツ振興のリーダーとして、指導現場で十分な知識や経験に基づいた指導をする指導員。地域のスポーツ大会や行事において中心となり、地域の障がい者スポーツの普及・振興を進める役割を担う。	初級障がい者スポーツ指導員資格を取得して2年以上経過している者で、かつ80時間以上の活動実績を有する者。又は、日本スポーツ協会公認指導者（コーチングアシスタント、スポーツリーダー、スタートコーチを除く）のうち初期登録から3年以上経過している者。又は日本理学療法士協会会員の方。	33人
上級	都道府県におけるリーダーとして、障がい者スポーツの高度な専門知識を持ち、地域の初級・中級指導員を取りまとめる立場を担う。地域の障がい者スポーツの普及・発展におけるキーパーソンとしての役割を担う。	中級障がい者スポーツ指導員資格を取得して3年以上経過している者で、かつ120時間以上の活動実績を有する者。	7人

※ 障がい者スポーツ指導員資格は、日本国内の障害者スポーツの普及と発展を目指して、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会が公認する資格制度である。この資格は、障害者のスポーツ環境を整備する上で専門的な知識、技術を有する人材の養成、資質向上を目的とした資格である。

第3章

障害者スポーツ普及に向けた具体的な取組

第3章 障害者スポーツ普及に向けた具体的な取組

1 取り組むべき4つの柱

区 分	内 容
(1) 組織体制の整備・充実	大会競技の普及を効果的に実施するために必要な組織の整備・充実と、関係諸団体との連携強化を図る。
(2) 大会競技の普及及び選手の発掘・育成・強化	大会競技の普及及び選手の発掘・育成・強化を図る。
(3) 指導体制の確立	指導者の養成及び資質の向上を図るとともに、指導環境を整える。
(4) 障害者スポーツ普及のための環境整備	障害者スポーツ普及を円滑に進めるために、練習環境の整備や選手のサポート体制の充実を図るとともに、積極的な広報活動に努める。

2 具体的な対策

(1) 組織体制の整備・充実

現状・課題

- ◆ 障害者スポーツ競技に取り組むチーム、選手が徐々に増えてきたものの、競技団体等におけるサポート体制や、指導体制が十分でない。
- ◆ 障害者スポーツ競技の向上に携わる関係諸団体の役割を明確にするとともに、相互に協力し合うシステムづくりが必要。

① 障害者スポーツを行う組織の整備

ア 障害者スポーツに特化した組織整備に対する支援

全国障害者スポーツ大会の競技種目の競技団体等を組織する場合、組織整備に関する支援を行う。

イ 競技団体に対するチーム結成に向けての情報収集支援

競技団体が障害者スポーツに特化した部門を創設する場合、他県の状況等についての情報を収集し、競技団体への情報提供を行う。

② 関係諸団体との連携強化

ア 団体間ネットワークの構築

障害者スポーツ普及の主体となる障がい者スポーツ協会や障害者団体、特別支援学校・作業所、指導者協議会等が相互に連携し、普及に取り組むことができる環境の整備に努める。

イ 市町、障害者団体、競技団体及び教育機関等の連携・支援

全障スポ佐賀大会の開催を契機として、地域において障害者スポーツが普及するよう、市町、障害者団体、競技団体及び教育機関等の連携を支援する。

(2) 大会競技の普及及び選手の発掘・育成

現状・課題

- ◆ 個人競技や団体競技の選手発掘につながる取組が必要。
- ◆ 団体競技は、徐々にチーム結成が進んでいるものの、令和2年度時点で、チーム未結成の競技が、3競技4種目ある。
- ◆ 特別支援学校では、障害の程度が多岐に渡るので、授業での取組が難しい。
- ◆ 特別支援学校の生徒は、卒業後は生活維持が優先となり、競技を続けることが困難となる事例がある。

① 個人競技選手の発掘・育成・強化

ア 佐賀県障害者スポーツ大会等の開催

スポーツに取り組んでいない障害者がスポーツに取り組むきっかけの大会となるよう、佐賀県障害者スポーツ大会等を今後も開催する。

イ 未出場障害区分の選手発掘・育成・強化

佐賀県障害者スポーツ大会等の参加者を広く募集し、未出場障害区分の選手の発掘に取り組む。また、その選手が全障スポ佐賀大会等で活躍できるように育成・強化に取り組む。

② 団体競技選手の発掘・育成・強化

ア 未普及競技の選手発掘・育成・強化

スポーツ体験教室等を通して、未普及競技の普及に努め、選手の発掘に取り組む。また、その選手が全障スポ佐賀大会等で活躍できるように育成・強化に取り組む。

イ 特別支援学校、作業所等におけるチーム編成に向けた支援
特別支援学校や作業所等が授業やレクリエーションの中で、未普及競技に取り組むことができる環境を整備する。

ウ 普及推進校及び推進地域の選定

特別支援学校等が未普及競技に取り組む場合は、普及推進校として選定、また、学校や施設等が合同で未普及競技に取り組む場合は、普及推進地域として選定し、取組に対する支援を行う。

③ 両競技選手共通の発掘・育成・強化

ア スポーツ体験教室等の開催

スポーツ体験教室等を開催し、大会競技の普及を推進するとともに、選手の発掘を行う。

イ 育成指定選手の認定

全障スポ佐賀大会の出場が見込まれる選手を「SAGA2024 育成指定選手」として認定し、佐賀県代表としての意識の高揚を図る。

ウ 全国障害者スポーツ大会に向けた練習会の実施

選手の能力を更に向上させるため、「SAGA2024 育成指定選手」の練習会を実施する。

エ 特別支援学校卒業後に競技を継続するための生活・就労支援機関等との連携

特別支援学校の生徒が卒業後も競技に取り組めるよう、所属する職場への協力を依頼するなどの環境づくりを行う。

(3) 指導体制の確立

現状・課題

- ◆ 障害の特性を理解した指導者の養成が必要。
- ◆ 指導者の不足。
- ◆ 指導者の練習等の参加に対する職場の理解が必要。

① 指導者の養成及び資質向上

ア 障がい者スポーツ指導員資格取得の促進

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会公認スポーツ指導員資格の取得を目指す指

導者や更なる上級資格の取得に挑戦する指導者に対する支援を行う。

イ トップレベル選手や指導者の特別支援学校等への派遣

競技の魅力を発信できるようなトップレベル選手や指導者を希望する特別支援学校等へ派遣し、競技の普及とともに指導者の資質向上を図る。

ウ 国内の優秀な指導者を招聘した研修会の開催

障害者の指導で実績をあげている優秀な指導者を招聘し、県内指導者向けの研修会を開催する。

② 指導者の確保

ア 教育委員会や既存競技団体との指導者確保に向けた連携

障害者の指導に長けた指導者を発掘するため、教育委員会や既存競技団体等と連携し、指導者確保に努める。

イ 指導者が少ない競技への他競技指導者からの転向支援

国民体育大会で実施されておらず指導者が少ない競技について、共通事項のある競技からの転向支援を行う。

③ 指導環境の整備

ア 指導者が活動しやすい環境づくり

全国障害者スポーツ大会は、選手団が県の代表として臨む大会であることから、指導者が所属する職場の理解や協力を依頼する。また、指導者が競技力の向上に資する研修会等に参加しやすい雰囲気づくりを支援する。

イ 指導者間の連携体制の構築

指導者同士が競技の枠を超えて情報交換する場を設けるとともに、必要に応じて、技術やトレーニング法等を競技間で共有するための交流会等を企画・開催する。

(4) 障害者スポーツ普及のための環境整備

現状・課題

- ◆ 障害者スポーツを支えるサポーターが不足している。
- ◆ 障害者が障害者スポーツの枠に留まりがちで、地域で日常的にスポーツを楽しむ環境にはない。
- ◆ 障害者スポーツに関する情報を障害者に届けるのが難しい。
- ◆ 障害者スポーツができる公営の体育施設が限られており、また普及のための競技用具等がない状態である。

① サポーターの育成

ア サポーター研修会の開催

障害者がスポーツに取り組みやすくなるよう、移動の支援等を行うサポーターを育成するための研修会を開催する。

イ サポーターの派遣

障害者がスポーツを行う際に支援するためのサポーターを派遣する体制や組織づくりを佐賀県障がい者スポーツ協会と共同で行う。

② 地域と障害者スポーツとのつながりの促進

ア 市町や総合型地域スポーツクラブでの障害者スポーツの普及促進

全障スポ佐賀大会の開催をきっかけとして、市町において障害者スポーツ普及の施策を推進していただくとともに、総合型地域スポーツクラブで障害者スポーツ競技に取り組んでいただくなど、地域における障害者スポーツ普及を図る。

イ 地域リーグや大会等への参加支援

全障スポ佐賀大会に向けた競技への取組の延長として、地域リーグや各種大会へ参加するための情報提供などの支援を行う。

③ 広報活動による県民への障害者スポーツの周知と情報戦略

ア SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の活用

フェイスブック（Facebook）等の SNS を活用して、体験教室の告知や全国大会等で優秀な成績を収めた選手の情報を逐次発信し、県民への障害者スポーツの周知や理解を深める。

イ マスメディアとの連携

新聞・ラジオ・テレビ等のマスメディアとの連携を図り、障害者スポーツに関する情報提供の機会を増やすことで、障害者スポーツが県民にとって身近なものとなるよう働きかけるとともに、「誰もがスポーツを楽しむ環境づくり」の一翼を担う。

ウ 情報収集と分析

先催県が取り組んでいる選手の発掘・育成・強化対策事業等の情報を収集・分析し、関係諸団体と協力しながら、障害者スポーツの普及を図る。

④ 競技普及に対する支援

ア 障害者スポーツの体育施設使用への理解促進

スポーツをする際、障害のあるなしに関係なく、誰もが体育施設を利用できるように、施設管理者に対し、障害者スポーツへの理解促進に努める。

イ 施設の利用助成

練習等で利用する施設の利用料について助成を行い、競技に取り組みやすい環境を作る。

ウ 競技用具の整備等

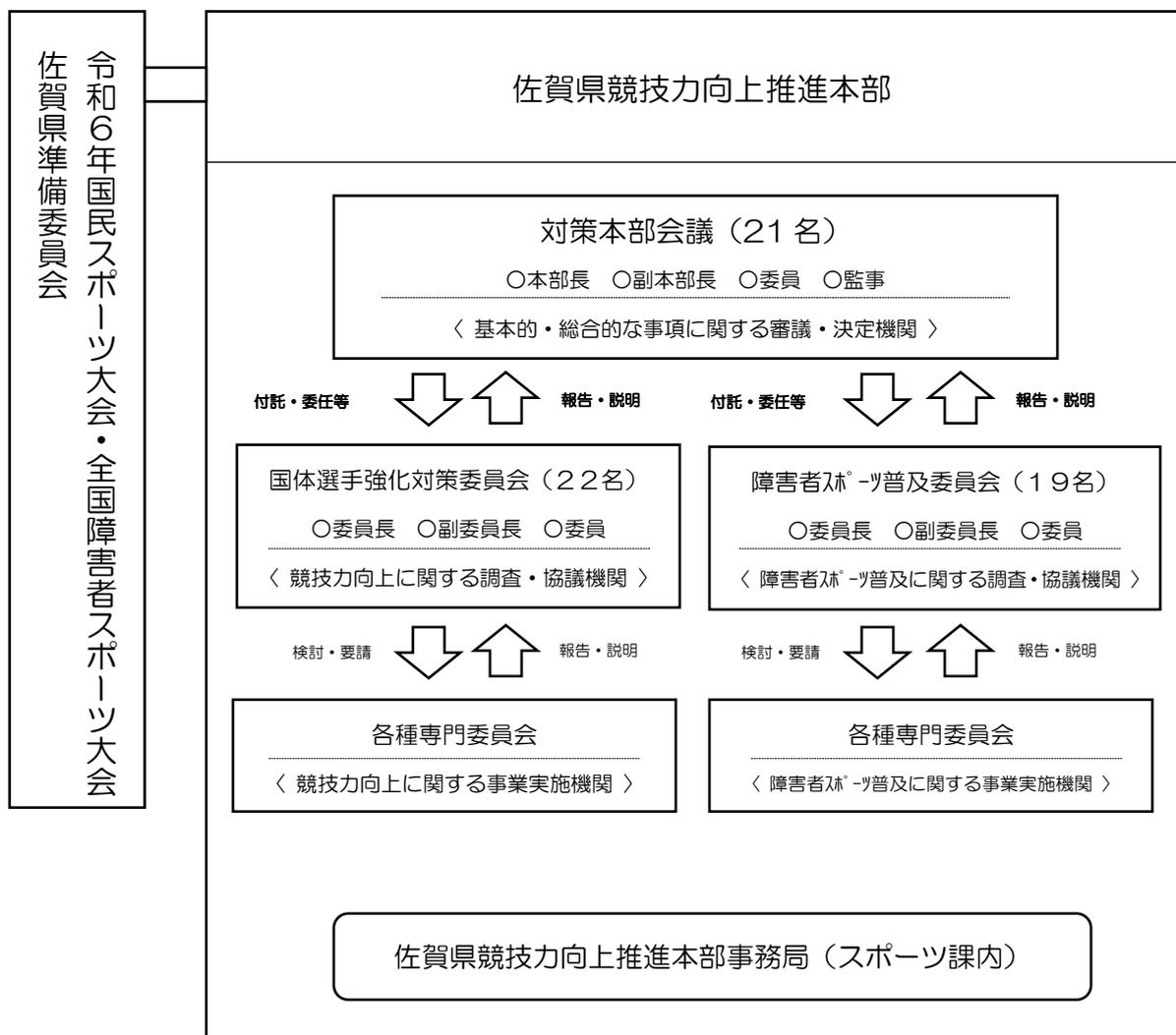
特別支援学校や作業所等が未普及競技に取り組めるよう、競技用具の購入や指導者の派遣等に対する支援を行う。

第4章

障害者スポーツ普及基本計画の推進体制

第4章 障害者スポーツ普及基本計画の推進体制

1 推進体制の組織図



2 推進体制の充実・拡充

(1) 基本計画に基づく障害者スポーツ普及対策事業の展開

障害者スポーツの現状を公平に分析・評価した上で、障害者スポーツ普及事業に係る各種予算を適正に配分・執行管理し、障害者スポーツの着実な普及につなげる。

(2) 新たな障害者スポーツ普及対策の立案と組織の充実

既実施の障害者スポーツ普及事業の成果や課題を検証し、必要に応じて基本計画の見直しを行うなど、現状に即した障害者スポーツ普及事業を立案する。

また、より効果的・効率的な障害者スポーツ普及事業を推進するにあたり、適宜、競技力向上推進本部の組織の充実を図る。

参 考

全国障害者スポーツ大会の概要

(1) 大会の開催状況

全国障害者スポーツ大会は、平成13年度から、それまで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国知的障害者スポーツ大会」が統合され、「全国障害者スポーツ大会」として、第1回大会が宮城県で開催された。その後、大分県で開催された第8回大会から、精神障害者のバレーボールが加わり、身体障害者・知的障害者・精神障害者の方が一体となって行う、現在の形となった。

開催年と開催県・開催予定県

開催年	開催回数	開催県	開催年	開催回数	開催県
平成13年	第1回	宮城県	平成27年	第15回	和歌山県
平成14年	第2回	高知県	平成28年	第16回	岩手県
平成15年	第3回	静岡県	平成29年	第17回	愛媛県
平成16年	第4回	埼玉県	平成30年	第18回	福井県
平成17年	第5回	岡山県	令和元年	第19回	茨城県
平成18年	第6回	兵庫県		台風のため中止	
平成19年	第7回	秋田県	令和2年	第20回	鹿児島県
平成20年	第8回	大分県		新型コロナウイルス感染症の影響により令和5年へ開催延期	
平成21年	第9回	新潟県			
平成22年	第10回	千葉県	令和3年	第21回	三重県
平成23年	第11回	山口県	令和4年	第22回	栃木県
平成24年	第12回	岐阜県	令和5年	特別回	鹿児島県
平成25年	第13回	東京都	令和6年	第23回	佐賀県
平成26年	第14回	長崎県	令和7年	第24回	滋賀県

(2) 主催者

文部科学省、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、大会開催地の都道府県・指定都市及び区市町村、その他関係団体

(3) 開催について

ア 開催地

国民体育大会開催地の都道府県

イ 開催時期

国民体育大会の直後を原則とし3日間で開催。開催年の概ね3年前までに決定する。

ウ 会場

競技施設は、原則として、国民体育大会本大会の会場を使用する。

(4) 参加選手団規模

ア 参加者数

約5,500人(選手約3,500人、役員約2,000人)

イ 参加自治体

47都道府県、20指定都市 計67自治体

(5) 参加資格

- ・ 毎年4月1日現在、13歳以上の身体障害者及び知的障害者並びに精神障害者
- ・ 申込み時に参加する都道府県・指定都市内に現住所（住民票のある地）を有する者
- ・ 個人競技に出場する選手は、原則として同一競技内での2種目まで（リレーに種目に出場する選手は3種目まで）出場できる。
- ・ 団体競技に出場する選手は、個人競技には出場できない。
- ・ 団体競技に出場するチームは、開催地都道府県・指定都市の代表チーム及びブロック予選会で優勝したチーム

(6) 開催県の大会参加状況及び成績（平成23年～平成30年）

競技名	第11回山口大会 (平成23年)					第12回岐阜大会 (平成24年)					第13回東京大会 (平成25年)					第14回長崎大会 (平成26年)					
	選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				
		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計	
個人	陸上競技	61	47	25	17	89	68	46	25	20	91	105	89	57	23	169	64	19	14	22	55
	水泳	17	11	9	7	27	20	8	11	11	30	35	41	16	6	63	20	10	8	9	27
	アーチェリー	4	4	0	0	4	3	1	1	0	2	7	3	3	0	6	4	0	1	1	2
	卓球	22	14	6	2	22	20	7	5	8	20	33	26	4	3	33	18	7	4	6	17
	フライングディスク	23	7	12	1	20	24	11	8	11	30	39	18	8	10	36	25	3	5	15	23
	ボウリング	15	5	2	2	9	9	6	2	1	9	20	1	1	5	7	12	0	3	5	8
	個人競技計	142	88	54	29	171	144	79	52	51	182	239	178	89	47	314	143	39	35	58	132
	団体	バスケットボール(男子)	12	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	銀(2位)		1	12	メダルなし		0			0
バスケットボール(女子)		12	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	銀(2位)		1	12	メダルなし		0			0	
車椅子バスケットボール		11	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	銀(2位)		1	12	銅(3位)		1			1	
ソフトボール		15	メダルなし		0	15	メダルなし		0	15	銀(2位)		1	15	メダルなし		0			0	
クラフトボール		15	メダルなし		0	15	メダルなし		0	15	銀(2位)		1	14	メダルなし		0			0	
バレーボール(身体・男子)		10	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	銅(3位)		1	11	銅(3位)		1			1	
バレーボール(身体・女子)		7	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	メダルなし		0			0	
バレーボール(知的・男子)		12	銀(2位)		1	12	銀(2位)		1	12	銅(3位)		1	12	メダルなし		0			0	
バレーボール(知的・女子)		12	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	金(1位)		1	11	メダルなし		0			0	
バレーボール(精神)		12	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	銀(2位)		1	12	メダルなし		0			0	
サッカー		16	メダルなし		0	16	銀(2位)		1	16	金(1位)		1	16	メダルなし		0			0	
フットベースボール		15	メダルなし		0	15	メダルなし		0	15	金(1位)		1	15	銅(3位)		1			1	
団体競技計	149	0	1	0	1	157	0	2	0	2	157	3	6	2	11	154	0	0	3	3	
計	291	88	55	29	172	301	79	54	51	184	396	181	95	49	325	297	39	35	61	135	
競技名	第15回和歌山大会 (平成27年)					第16回岩手大会 (平成28年)					第17回愛媛大会 (平成29年)					第18回福井大会 (平成30年)					
	選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				選手数	メダル数				
		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計		金	銀	銅	計	
個人	陸上競技	59	29	16	17	62	63	26	19	20	65	67	2	3	4	9	60	5	9	3	17
	水泳	18	9	5	5	19	18	17	5	4	26	18	3	2	1	6	17	2	0	1	3
	アーチェリー	3	1	1	0	2	4	2	1	1	4	4	1	0	0	1	3	0	0	0	0
	卓球	18	8	5	5	18	18	4	6	6	16	19	2	1	0	3	20	1	1	1	3
	フライングディスク	26	7	4	10	21	24	5	8	9	22	25	1	2	1	4	23	0	2	4	6
	ボウリング	13	2	2	1	5	12	1	3	1	5	8	0	1	0	1	11	0	1	0	1
	個人競技計	137	56	33	38	127	139	55	42	41	138	141	9	9	6	24	134	8	13	9	30
	団体	バスケットボール(男子)	10	メダルなし		0	12	メダルなし		0	11	メダルなし		0	11	メダルなし		0			0
バスケットボール(女子)		11	メダルなし		0	12	メダルなし		0	11	メダルなし		0	12	メダルなし		0			0	
車椅子バスケットボール		12	メダルなし		0	12	メダルなし		0	10	メダルなし		0	11	メダルなし		0			0	
ソフトボール		15	銀(2位)		1	15	メダルなし		0	15	メダルなし		0	15	銀(2位)		1			1	
クラフトボール		15	メダルなし		0	15	銅(3位)		1	15	金(1位)		1	15	メダルなし		0			0	
バレーボール(身体・男子)		10	メダルなし		0	12	メダルなし		0	9	メダルなし		0	9	メダルなし		0			0	
バレーボール(身体・女子)		8	メダルなし		0	12	メダルなし		0	10	メダルなし		0	7	メダルなし		0			0	
バレーボール(知的・男子)		11	銅(3位)		1	12	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	メダルなし		0			0	
バレーボール(知的・女子)		9	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	銀(2位)		1	12	メダルなし		0			0	
バレーボール(精神)		12	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	メダルなし		0	12	メダルなし		0			0	
サッカー		16	メダルなし		0	16	メダルなし		0	16	メダルなし		0	15	メダルなし		0			0	
フットベースボール		15	メダルなし		0	15	メダルなし		0	14	メダルなし		0	15	銅(3位)		1			1	
団体競技計	144	0	1	1	2	157	0	0	1	1	147	1	1	0	2	146	0	1	1	2	
計	281	56	34	39	129	296	55	42	42	139	288	10	10	6	26	280	8	14	10	32	

※大会名が開催県である。